



勝山市内の家庭や事業所から排出されるごみの量は、平成22年度においては年間約7300トンで、1日に私たち一人当たり約770グラムのごみを排出していることとなります。前年度の実績と比較すると減少しましたが、私たちが各地区のごみステーションに出すごみも、分別の徹底や生活習慣の改善によって、より一層のごみの減量化を実現することが可能です。市民一人ひとりが少しずつごみを減らすことは、地球にやさしい生活を送る第一歩となります。

勝山市のごみの現状

「ごみの減量化実現の」一歩を歩みだそう

「缶類」「ペットボトル」「ビン類」は資源ごみとして収集され、さまざまな製品として再生利用されています。しかし正しく分別されなければ、資源として再生利用できません。資源ごみの分別徹底に対し、市民の皆さまのご理解とご協力をお願いします。

「缶類」「ペットボトル」「ビン類」は分別してリサイクル



また、「生ごみ」には調理の際に出る野菜くず以外に、食事の食べ残しも多いため、ごはんを残さずに食べることもごみの減量化にとって大切です。野菜くずは、しっかりと水切りをして出ししましょう。

ごはんは残さずに食べよう

「紙類」に次いで、家庭から出る燃やせるごみに多く含まれるのが「生ごみ」です。勝山市では、生ごみの減量化に有効な手段となる「生ごみ処理機」と「生ごみ処理堆肥化容器（コンポスト）」の購入助成をしています。これらを用いれば、生ごみを減らすだけでなく、花や野菜を育てる肥料としても利用できます。

分別方法

ビン類

・お酒の一升ビン（通常の茶色のビン）やビールビン（通常のビン）は、酒の小売店やスーパーなどに引き取ってもらってください。引き取られたビンは、洗浄して何度も使用されます。

・必ずビンの中を洗って、ふたは外してください。（プラスチック製のふたは燃やせるごみ、金属製は燃やせないごみになります。）



缶類

・中を軽く水洗いし、缶の中には異物が残らないようにしてください。



ペットボトル

・飲み残しがないように、中は軽く水洗いしてください。  
・ラベルとふたは必ず外してください。（燃やせるごみになります。）



分ければ資源！  
分別を徹底しよう！



「紙類」を、各地域や学校などで実施している集団回収に積極的に出して、ごみの減量化および再資源化を進めましょう。



子ども会の集団回収

「紙類」は燃やせるごみではありません

勝山市では、「紙類」を資源ごみとして、「新聞紙」「段ボール」「その他の紙」「紙パック」に分別収集しリサイクルを行っています。また多くの紙類が燃やせるごみとして焼却処理されています。写真やカーボン紙、感熱紙、防水加工された紙などはリサイクルできない紙ですが、チラシや包装紙、名刺などのほとんどの紙は、「その他の紙」に分別を徹底することでリサイクルすることができます。

九頭竜川を美しく保つために

～クリーンアップ九頭竜川2011～



市内外から753人が参加

九頭竜川の美しさの再認識と愛着を持ってもらうことを目的とした「クリーンアップ九頭竜川2011」が、(社)勝山青年会議所主催のもと、5月22日（日）に九頭竜川沿いの8会場で開催されました。

今回で7回目となる取り組みに、市内外から過去最多の753人が参加し、3250kgのごみが回収されました。昨年に引き続き、同じ九頭竜川沿いの永平寺町、坂井市からボランティア団体も参加しました。

また、今回市内3中学校の生徒・保護者も約100人参加しました。子どもにごみの現状を知ってもらうことで、川にごみを捨てない、また捨てさせない意識啓発を広げていきます。



集めたごみの分別



中学生も参加

誰が捨てたごみ？

5月20日（金）に勝山中中部中学校の生徒全員による、毎年恒例の浄土寺川清掃と、学校周辺地域の清掃活動が行われました。

この活動は30年以上続いていて、浄土寺川ではこれからの季節にホタルを見ることが出来ます。

清掃活動に先立ち、勝山市環境保全推進コーナーディネーターの前園泰徳さんが生徒たちを前に講演を行いました。

その中で前園さんは、「ごみを拾うことは素晴らしいが、そのごみを分析することによって、誰がごみを川に捨てているのか突き止め、これ以上ごみが川に捨てられないように、元から絶たなければ意味が無い。それができれば、もう河川清掃を行わなくても済むようになる。」と話しました。浄土寺川清掃は、3年



頑張る生徒たち



集めたごみの分別

中部中学生が浄土寺川清掃

生が担当しました。見た目はきれいな川でも、実際はかなりのごみが集まりました。

生徒たちが来年は清掃活動をしながらもよいよう、「川にごみを捨てない」実践につなげましょう。

「川にごみを捨てない」実践を